

令和2年度 鹿児島県アイランドキャンパス事業

与論町の住民の力を活用した「生活の支えあいづくり」活動の構築支援に関する研究

報告書

# ～地域で生活続ける～



鹿児島女子短期大学 生活科学科生活福祉専攻

福永 宏子

## 1. 研究の目的

住み慣れた島の生活を継続できるためには、多くの地域（与論町内）住民が参加する生活支援ネットワークの構築が必要となる。そこで、与論町内各地域の住民に、高齢者や障害者の心身がどのような状態でも、生活は地域で継続させられることを理解してもらい、地域住民が主体となる生活支援ネットワークの構築および関係機関とのネットワーク体制の整備を行っていく。地域での高齢者や障害者の生活の継続が可能になるネットワーク体制の整備により、与論町における地域主導型の生活支援の活動拡大や社会資源の増加を目指す。

今回、学生が与論島での介護の実情や地域での支えあいについて理解を深め、自分たちで「地域における支えあいづくり」に必要な課題や問題点を明らかにし、支援が必要な離島の住民の方々に対しての対応や支えあいの実践が自主的に可能になっていくことを目指す。これらの活動により、与論島内各地域の互助機能の強化も期待できる。

## 2. 実施時期

- ①令和3年2月9日（火曜日）～10日（水曜日） 短大と与論町とオンラインつなぎ実施
- ②令和3年2月22日（月曜日）～24日（水曜日）与論町

## 3. 参加者

- ① 鹿児島女子短期大学 教員3名 学生9名 与論町 10名
- ② 鹿児島女子短期大学 教員1名 学生2名 与論町 14名 延べ人数 39名

## 4. 実施の方法

### (1) インタビュー調査

<ねらい>

- ① 現在の生活を通して、当事者の思いやそれを支える家族から直接話をきく
- ② 実際に話を聞くことで、非言語からも当事者・関係者の思いを推察する
- ③ 多角的な視点で考えることで、地域の課題を地域資源にかえ、そこから持続可能な地域づくりを考えるきっかけづくりをする。

<対象>

- ① 自宅で、介護を受けながら生活をしている利用者とその家族 2組
- ② ①の利用者の介護支援専門員及び相談支援員 各1名

<所用時間>

30分～45分程度

<実際の流れ>

今の状態の受容過程や思い出すことによって、感情が揺らぐことがあることを想定して、初対面であっても話を始めやすい環境を作ることに努める。

- ・声のトーン、表情、共感的態度など
- ・インタビューの間は、録音・録画の同意を得たうえで、確実にできるように準備しておきます。
- ・インタビュー以外は、しっかりと内容を記録します。また、その時に、非言語的な様子も観察し記録をしておきます

## (2) ワークショップ

<ねらい>

- ① これまでの学修の成果として、その人らしく、地域で生活するためにどのようなことができるかを考え、地域や関係者を共有することができる
- ② 地域に関係がなくても、その人のことを一生懸命考えることで、新しい発見やつながりをとらえることで、地域に還元できる。
- ③ 多角的な視点で考えることで、地域の課題を地域資源にかえ、そこから持続可能な地域づくりを考えるきっかけづくりをする。

<方法>

### 導入 趣旨説明 話題 (テーマの提供)

- ・説明 ⇒ 地域で生活を続けるために、事例やインタビューを通して、現在課題を考えます。どうしてその課題は生まれたのかを考えてみる。
- ・話題の提供 ⇒ 事前に配布した資料の経過をたどり生活をされている利用者と同じような環境で生活している利用者の方2名にインタビューを行う。

### グループワーク1 「現在の課題を考える」

- ・「その人の望む生活」を送るうえでの課題を付箋に書き出す (最低5つ以上)
- ・付箋に書き出したものをグループ内で共有しながら分類する
- ・分類したものにそれぞれ「タイトル」をつける
- ・分類したものを最重要度順にランキングをつける

### グループワーク2 「課題マップづくり」

- ・ランキング1位の課題を青色模造紙の中心に書きその周りを囲む
- ・なぜ、その課題が生れたかを考えてみる→ 原因として考えられることをそれぞれ書き込んでみる。
- ・その書き込んだものから、つながりのある要因や事項を、外側に広げて自由に書き込んでいく。そこから、つながりや関係性のあるものに線や矢印 (⇔)、関係性の強弱をつける。

### 全体ワーク1 「課題マップの共有」

- ・他のグループの白、青の模造紙、疑問に思う事や同感することがあれば、それをコメントや!・?等の記号を使って、他のグループのマップに直接書き込んでみる
- ・書き込まれた、コメントをグループで確認する

### グループワーク3 「インタビューのまとめ」と再検討

- ・他のグループからのコメントからさらにグループ内で要因や事項を検討する。
- ・インタビューの内容についてまとめ、印象についてまとめる

### グループワーク4 「地域づくりマップづくり」

- ・ピンクの模造紙1枚に使用する
- ・これまでのワークの中で、自分たちが実現したいことを1つ決める。
- ・これが実現できたら、どのような好循環が地域で作られるか、そしてどのようなゴールが待っているか図で表す
- ・もう1枚の模造紙を使用する
- ・実現できるイメージができれば、まず、どのような方法や手段があるか、どのように進めていくかを考えてみる

## 全体ワーク2 「地域づくりマップづくり」の共有

- ・各グループで ピンクの模造紙「地域づくりマップ」の発表
- ・与論島とオンラインで意見交換を行い、全員で共有する。
- ・全員で、感想や意見交換を行い、気づきを共有する。感想でもよい

## 【現地でのワークショップ】

### エピローグ \*趣旨説明 話題（テーマの提供）

- ・説明 ⇒ 地域で生活をするために、事例やインタビューを通して、現在課題を考える。 どうして、その課題は生まれたのかを考えてみましょう
- ・話題の提供 ⇒ 2月9日、10日に実施した取り組みの報告を行う。  
インタビューでの結果、ワークショップで考えた内容について説明を行います

### 個人ワーク \*「取り組みマップの共有」

- ・導入での報告を受け、実際の「取り組みマップ」をみながら、「疑問に思う事」「現在ある社会資源」「活用方法」「よいと思う事」について付箋に書きこみ貼る。 🍌 や!、?の記号でもOK!

### 全体ワーク1 \*優先順位の決定

- ・参加者のコメント等を参考にしながら、一番重要であると考えた内容に1つ「🍌シール」を貼っていく
- ・その中から、多かった内容の3つを決める

### グループワーク \*「未来マップづくり」

- ・これまでのワークの中で、自分たちが実現したいことを1つ決める
- ・その実現したい事にタイトルを決め、真ん中に書き込んでいく
- ・どのような方法や手段があるか、どのように進めていくかを考える

### 全体ワーク2 \*「未来マップ」の共有

- ・各グループの 模造紙「未来マップ」の発表
- ・全員で、感想や意見交換を行い、気づきを共有する。感想でもよい

### プロローグ

\*まとめ

(参考)「地域の解決課題をめざしたワークショップの手引き」～つながりが地域課題を解きほぐす～ 静岡県立大学「ふじのくに」

みらい共育センター 2016.3.24

## (3) 社会資源調査

<ねらい>

- ① 与論町内にある、公共施設や医療・介護福祉施設を調査することで、社会資源や環境について理解することができる

<方法>

- ・様々な資料を基に、与論町内の現状について把握し、与論町マップを作成する
- ・実際に与論島内を回りながら、環境や位置などを確認する

## 5. 取り組みの成果

### (1) インタビュー

4人の方に、インタビューを実施。オンラインで実施した。

利用者2名は、生活をしている雰囲気を撮影していただき、実際のインタビューに入る。在宅生活の利用者へのインタビューは、相談員が同席してもらい、事前に用意していた質問を行う。その後フリーでの質問を実施。会話でのコミュニケーションが難しい利用者のため、ヘルパー、家族が仲介をする場面等が見られた。

インタビューの結果、以下の内容のことが分かった

- ①現在の生活となる間、今も病気の進行に対しての不安はとても大きい。
- ②自宅での生活になると、本人の笑顔がとても増えた。家族も「これでよかった」と思える。
- ③できないことも多いが、してみたい事の希望も出てきている。大きな事でなく日常生活の小さなことであったりする。
- ④家族は、悲観的になるのではなく受け入れることで、前向きに生活できるようになっていく

また、相談員2名からは以下のことが分かった。

- ①なじみの関係が良いところでもあるし悪い面でもある。調整がとても難しい
- ②相談件数は多いが、社会資源の不足などでできない事もありジレンマを抱えている。
- ③一人でしないといけない負担もあるが、やりがいでもある。

### (2) ワークショップ

2つのグループに分かれ、討議を進めていった結果、「期待」、「命を守りたい」のテーマとなった。テーマの解決方法について検討を重ね、他グループからの意見も参考にしながら、具体的な「地域づくりマップ」の作成へ取り組んだ。「情報の発信」、「場の提供、共有」、「人、教育」、「負担、不安の軽減」、「つながり」などの可能性を提案した。与論町の障害者支援相談員とのオンラインでの意見交換会では、各グループの代表が説明を行ったのち、質疑応答を行った。その中から以下のようなことが分かった。

- ①人が近い存在であるがために、難しさが出てくることがある。
- ②初めから「無理だ」と思ってしまう事が、きちんと整理されたことにより、今ある課題がすっきりとした。
- ③今ある情報ツールなどをさらにうまく活用することが出来るかもしれない可能性ができた。



### (3) 現地ワークショップ

福祉課職員、民生委員、社会福祉協議会、保健センター等からも参加があり、3Gに分かれて行った。学生からの発表を基に、それぞれの模造紙へコメントを貼っていった。その中から、住民としての視点で「未来マップ」の作成を行った。よりイメージや楽しみながら行ってもらい、テーマが、「ユイタバー」「ピチュドゥ宝」「ゆかアグンチャー」と身近となった。具体的にどのようにしていくかの意見交換は、時間が足りなくなるくらいどのグループも積極的に行っていた。



実施した結果、以下の内容が明らかとなった。

- ①学生が考えた内容は、非常に整理されて参考考える前のよい材料となった。
- ②一方で、賃金の安さや住宅の確保など地域で生活する者でなければ分からない問題を共有できた。
- ③教育、人材育成に多くの興味があることが分かった。その中でも、小学校の頃からでも早く興味を持って取り組む必要性を感じた。
- ④「知っていると言わない」「知られたくない」の気持ちが交錯し、うまく支援に繋がらないもどかしさがあることが明らかとなった。
- ⑤「相談窓口などがわからない」「福祉事業所・施設が町内にあることを知らない人が多い」などの現状が明らかとなった
- ⑥情報の発信への工夫（今ある情報ツール）をすることで、興味を持つ人を増やす必要があることが明らかとなった。
- ⑦家族の関係の中で、支援が必要な人への態度などを見せることや、実際の場面の体験も必要であることが明らかとなった。



### (4) 社会資源調査

事前に調べた施設などを、実際に島内を車で一周しながら場所の確認を行った。地区公民館は、看板などの表記がなく中央公民館以外は確認することが出来なかった。また、島内を循環している道路からそれぞれ中に入った所に集落があったように感じた。東西に病院が離れており2か所しかないことやすべての診療科目があるわけではなく、島外へ受診に行かなければならいことが分かった。また途中、居宅介護支援事業所へ立ち寄り、利用者の現状などを介護支援専門員へインタビューを行った。在宅利用者の現状や、介護福祉の専門職のスキルアップに対する課題を知ることができた。

## 6. 結果

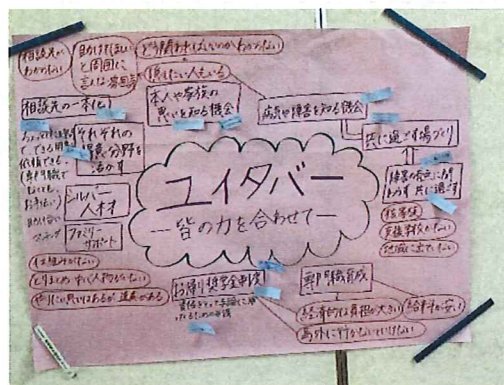
### (1) アンケート

現地のワークショップ参加者13名全員からの回答があった。

「ワークショップはどうだったか」に対しては、11人が「とても良い」、2人が「よい」との回答であった。

「楽しかった」との感想が一番多く、「一緒に考える機会ができ、改めて与論について考えたい」、「みんなで作り上げていく過程が良かった」「いろいろな意見を聞くことができてよかった」「様々な問題意識を共有できた」「わかりやすかった」「実現に向けて行動できれば良い」などの感想が出されていた。

次に、「一番印象に残っているところ」については、「一人では難しくても、力を合わせればできることを再確認した。」「まずは、ともに過ごす場づくりから」「与論への思いは一つ」「意見はあるが、だれが中心になって活動を勧めるか?」「今何ができるのか考えさせられた」「できることは助け合う、自然な形で出来たらいいな」など同じ思いを持っていることが確認できたことが印象として大きかったと考える。



「同じような企画があれば参加したいか」は、全員が「したい」と回答した。

その他の意見としては、「機関や立場を超えて一緒に考えていきたい」「学生の発表から深く掘り下げた勉強会を開催してほしい」「何回も実施して具体化していければ」「個人情報の保護と情報開示を増やすなども実現に向けての課題になる」「学生の頑張りを見て、自分も元気ももらった」などがあつた。

## (2) 学生レポート

学生のレポートからは、次のような学修の成果が得られたと回答があつた。

- ・まずは、環境だと思った。利用者の望む生活に必要なことは、心の支えになるものだと思います。これからも住み続けたいと思うような環境が利用者に精神的な安定をもたらし、QOLの向上にもなるのではないかと
- ・「病気のあるなしに関係なく、与論島に住んでいる人全員が住みやすい与論島になってほしい」の言葉に、島民が安心して安全に生活できる環境を整えていくことが大切なのだと感じた。
- ・現状を知ることは、すべての人が同じ社会で共に生活するために必要な第1歩だと思った。
- ・受けるサービスを選択することができず、施設側が利用者を選択している状況には1番驚いた。人材不足やハード面での不足している部分を補うことが必要だと感じた。
- ・与論だからこそ、つながりを大切に思いあっていくことが実現し得る可能性があると感じた。他にはない強みであると考えている。
- ・社会資源が不足していても、それぞれが工夫することで、快適な生活のための意思疎通を図ることができるのではないかと。
- ・利用できるサービスが少ないので、介護する家族の負担が多くなると感じたが、与論町役場で携帯電話を落としたときにすぐに対応してもらった。このことから困ったことがあつたらすぐに対応できることもあり、与論町民にとって安心して生活ができると感じた。
- ・与論町で、自分たちが考えたことに意見をもらったことで、考えなかったことや評価をもらったことで、非常に勉強になった。

## 7. これからの課題

数年来、与論町内で介護福祉に関する講義等を行い、人材育成を行ってきたが、今回の活動を通して、学生などの意見を参考にすることや、グループワークの方法を新たに知ることによって「生活のささえあいづくり」活動の構築支援につながつたと考える。さらに、それぞれの思いは同じであることも共通理解することが出来た。今回の活動を

さらに継続することで、活動の構築を可能にするためには重要であると考え。

## 8. まとめ

当初の実施予定が、新型コロナウイルス感染拡大警報発令中であり2回に分けての実施となった。学内での活動に当初は不安もあったが、与論町に関連する情報（広報誌、要覧、観光ガイドマップ）などを掲示し与論島内のマップをつくることから始めたことで、学生に対する意識付けになったと考える。また、インタビューでは、双方にとって初めての経験で不安も大きく、構造化インタビューを考えていたが、実際始まってみると遠隔ではあるもののコミュニケーションをとり和やかな雰囲気ですぐ終始した。最後に学生が歌を歌ったのだが、後日来島した際に、「病気になる歌なんて歌ったことがなかったけど、まだ歌うことが出来るのだ。と涙を流し感謝している」ことの感想を直接学生が聞くことがあった。学生にとっても住民にとっても、「いつも」とは少し違った時間を慣れた場所で体験できたことは非常に有効な事ではなかったかと考える。さらに、相談業務を担っている2名の方からは、現状の厳しさやその中でも活動に対してのやりがいについて話を聞くことが出来た。

インタビューや配布資料を参考にしながら、ワークショップをすすめた。時間を十分にとることが出来たので、じっくりと討議出来ていたように感じる。成果品をもとに与論町とオンラインで全体会をおこなった。意見交換も行いながらであったが、「現状について整理できたことが良かった」との感想をもらった。

与論町での活動は、2名の学生と参加したが、これまでの成果を発表したうえで、一緒に考えるワークショップを行った。付箋紙に意見を書いたことで、様々な意見が出た。自分たちの「未来マップ」を作る場面では、テーマを定めたグループが「人（人材・育成）」にあげ、「つながり」を意味する方言にしたことが印象的であった。

仕上げることも大切であったが、学生も交え様々な意見を出し合っている様子をみて、住民、学生双方、なんらかのきっかけづくりの提供になったと考える。最後に、参加者から、「定期的に集まって、活動を続けていくことの必要性がある」と発言があり、今後も継続して活動を行っていきたいと感じた。



## アイランドキャンパス事業 「生活の支えあいづくり」 in与論町 実施表

2月22日（月） 1日目

時間	
10:00	鹿兒島空港 JAL搭乗手続きカウンター前集合
	搭乗手続き 搭乗準備（昼食など）
	移動
13:00	与論着
13:00	ホテルから迎え 宿泊先チェックイン レンタカーレンタル
14:30	社会資源調査 スタート（居宅介護支援事業所 ヨロン園）
	島内めぐり
	福祉施設 地域の特徴などを調べる
17:00	宿泊先着
18:00	夕食
19:30～	社会資源調査まとめ
21:00	明日の確認

2月23日（火） 2日目

9:00	宿泊先出発
～9:30	準備
～10:00	受付け
	開会のあいさつ（ ）
	目的の説明（福永）
～10:30	前回のワークショップの結果報告（A→古山 B→コン）
～10:50 個人ワーク1	課題マップの共有 提示したマップを見ながら、「疑問に思うこと」「現在ある社会資源」「よいと思うこと」について付箋に書き貼る。 必要に応じて学生は、質問に答えたり自身も付箋に書き貼る
～11:00	各グループ発表
	休憩
11:15～12:15 グループワーク	各グループに分かれ、付箋等を参考に、①目指したいゴール ②何からできる？ ③どのようにできる？を一緒に考える。 *このときは、実現不可能かもしれないけれども、してみたい事も書いてOK！自由に *他の人の意見に反対や否定をすることは、NG！
～12:45 全体ワーク	各グループ発表 意見交換
～13:00	まとめ 修了の挨拶
16:00～18:00	取り組みのまとめ

2月24日（水） 3日目

～9:30	
～10:30	結果報告
	搭乗手続き
15:00	鹿兒島着 解散

**アイランドキャンパス事業 「生活の支えあいづくり」 in与論町 実施**

2月9日(火) 1日目			
時間	鹿児島		与論
	A	B	
9:30	集合 西館203教室		
	説明 グループ分け (26)		
	方法や準備の確認		
10:00~11:00	事前準備 (事例の把握)		
11:15~	オンライン インタビュー 障害者福祉 氏	調査研究	与論島についての簡単な説明 とインタビュー (氏)
11:50	【インタビューの内容】	その人の望む生活 支援の方法と手段について考える	
	①現在相談支援を行っている中で、一番多い相談はどのような事ですか？		
	②相談支援を行っている中で、困った事例はどのような事ですか		
	③相談支援を行っている中で、のやりがいはどこですか？		
	④さらに、与論町がどのように発展してほしいですか		
	⑤与論町での良さは何ですか		
	⑥発展に対しての課題や不安はどのような事ですか？		
	⑦フリー		
12:00	休憩		
13:15~	インタビュー 利用者 家族	その人の望む生活 支援の方法と手段について考える	利用者宅へ訪問 動画等撮影 (氏)
13:50	①現在の生活になるまでに、心配だったことや不安だったことをは何ですか		
	②現在の生活の中での楽しみは何ですか		
	③今の生活の中で心配なことはありますか		
	④これから生活を始める方へのアドバイスがあれば教えてください		
14:00~	調査研究	オンラインインタビュー 高齢者福祉 氏	インタビュー (氏)
14:50	その人の望む生活 支援の方法と手段について考える	【インタビューの内容】	
		①現在相談支援を行っている中で、一番多い相談はどのような事ですか？	
		②相談支援を行っている中で、困った事例はどのような事ですか	
		③相談支援を行っている中で、のやりがいはどこですか？	
		④さらに、与論町がどのように発展してほしいですか	
		⑤与論町での良さは何ですか	
		⑥発展に対しての課題や不安はどのような事ですか？	
		⑦フリー	
15:15~	インタビュー 利用者 家族	その人の望む生活 支援の方法と手段について考える	利用者宅へ訪問 動画等撮影 (氏)
15:50	①現在の生活になるまでに、心配だったことや不安だったことをは何ですか		
	②現在の生活の中での楽しみは何ですか		
	③今の生活の中で心配なことはありますか		
	④これから生活を始める方へのアドバイスがあれば教えてください		
~16:30	インタビューまとめ		
2月10日(水) 2日目			
時間	鹿児島		与論
9:30~	集合 南館 304教室		
	インタビューのまとめ	インタビューのまとめ	
11:30			
12:00	休憩		
13:00	調査研究 まとめ	調査研究 まとめ	
15:30	オンライン 報告会		オンライン ( )